



Ieyasu Kenji

家安建次

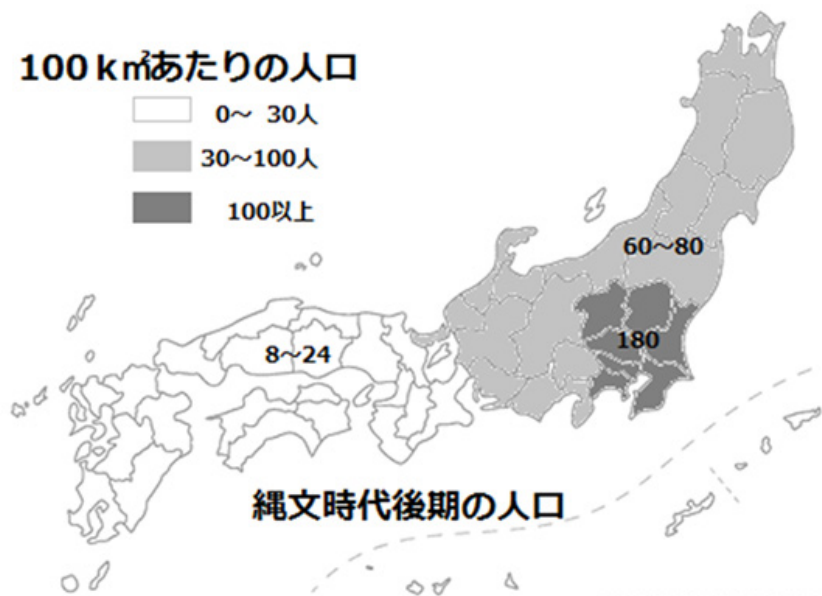
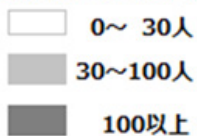
開化する崇神

前編

目次

序	5
信州長野王国の内乱	6
孝元將軍の死	30
開化將軍の成立	46

100 kmあたりの人口



開化する崇神 前編

序

千七百年程の昔、ヨーロッパではローマ帝国が円熟期を迎えキリスト教が公認されていた。隣国・中国では卑弥呼の魏志倭人伝で知られる魏の国は滅び、混乱期を迎えていた。

そして日本も魏志倭人伝の卑弥呼の邪馬台国は滅び、混乱期に入っていた。

即ち、時代は七百年に一度の寒冷期に入っていたからである。

この時代に、初代の天皇と言われる崇神天皇が誕生する。

崇神天皇は最初にヤマトを統治した人として神話に登場する。

何故に初代の天皇が誕生したのか。それは崇神の父・開化將軍が日本の混乱期に組織だった軍隊を開化させ、崇神天皇の礎を築いた、と連想して物語を始める。



遺跡や遺物からは西関東と東関東の境界には東国人
とは別の民族が生活していた

開化は日本武尊の祖父の祖父・高祖父で日本武尊の約
百年前、大国主命の約百五十年後の時代に誕生した。

神武天皇――（六代略）――孝元天皇――開化天皇――崇神天
皇――垂仁天皇――景行天皇――日本武尊

なお天皇と言う名が使われたのは約六百年後の天武天
皇からと言われているから、正確にはヤマトの王となっ
た崇神王と言うべきであろうが、便宜上神話そのままに
天皇と記す。

信州長野王国の内乱

神話からの連想は古代の遺物遺跡からの連想である。

過去に何かの歴史書に、古代東国の狩猟民と農耕民の
境界らしき、西関東と東関東の間には緩衝地帯が設けら
れ、異民族が住んでいた、と読んだ記憶がある。



これを、崇神天皇の父・開化によって、脅え死ぬほど恐れた狩猟民から東国の農耕民を守るために、この緩衝地帯に東国にとって異国であり異民族であったヤマトの西日本人が置かれた、と物語を連想していく。

この時代、信州・長野県には信王が創った、日本全国を統治して来た信州長野王国があった。

事実、この時代の遺跡は日本国中で信州長野県が一番多く、山の中にも要塞の如き大施設、大集落が形成され、遺品遺物の最高傑作は全て信州長野県で発掘されている。

農耕の弥生時代から現代までも約二千年しかない。

信王のいた縄文時代は何万年とあった。ただ鉄



器と農耕文明がないだけで、それ以外は、それは大変素晴らしい文明をオウ歌していた。

当時の日本とは、西日本の十倍の兵力を持つ東日本の事を言い、ヤマト・西日本は東国に卑下され、口もきけなかった。その差別され卑下された民族を、信王は大国主の子・事代主王の建御名方を信王の一族として迎え入れた。

即ち、信王により西日本人は初めて人間として扱われた。

何故にプライドの高い信州長野王国に農耕文明が導入されたのか。「大国主が、西日本を支配していた吉備国の、瀕死の竜王の病気を治した」と言う感動の逸話を信王が聞き、大国主の子・事代主を長野王国に迎え入れ、新しい鉄器文明と農耕も取り入れたのだ。

縄文文化の石器と狩猟の中に弥生文化の鉄器と農耕が

導入されたのだ。

農耕も取り入れたとは即ち川の氾濫に堤を築き川を治める事でもある。

川の氾濫は住居を破壊し、プクプクと浮く糞尿の汚水は衣食住、全てを腐らせる。しかし川を治める治水は黄金の稲穂を実らせるのだ。

春には永遠に続く湖の鏡の様な一面の水田に、目に入れても痛くないほど可愛い赤子の手の様な稲穂の芽が鏡の様な水田に微笑ましくニヨキニヨキと出て来る。そうなのだ、川の氾濫で衣食住すべてを腐らせた悪臭の地獄から、治水は大自然を鏡の様な水田の美のハーモニーの天国に変える。

そして秋には米の稲穂が太陽の光に黄金色に染まり、吹きぬける風に大海が波打つ様にどこまでも永遠に揺れ動き潮騒の様にザーと騒ぐ様は、この世を黄金の稲穂の美のハーモニーの天国に変える。

治水事業は蛇や獣、そして害虫の蔓延した人を寄せ付けない荒廃する地を美しい美のハーモニーを奏でる肥沃な水田に変える。天国に変えるのだ。

しかし、この東国の狩猟民に農耕文明を取り入れた事が日本全国を統治して来た信州長野王国

に亀裂が走り分裂する事になるのであつた。

狩猟は山の幸・海の幸を、収穫の有る時も無い時も皆で分け合う。首領でさえも皆と同様に平等に分け合うのだ。

他方、農耕は生活を豊かにするが、葛藤を生み出す欲から縄張りを作り互いに争い、勢力の有る者が弱い者を所有地から追い出すようになる。そして貧富の格差を生じると女を売ったり子供を売ったりするなどの悲劇も起こる。

そして、いざ戦争となると農耕民は富でフヌケになり恐怖と臆病風に吹かれ、戦闘には役に立たなくなるからだ。

農耕民より狩猟民の方が戦いには文句なしに強い。野山を駆け巡るガツチリした体格と野獣を屠殺するギラギラした凄まじい鋭い眼光に、農耕民は臆病風に吹かれ足は震え上がる。

だから長野王国の狩猟民は農耕文明を拒否し分裂する事になるのであつた。

農耕文明を取り入れた東国人とは信州・長野県を中心とした東京都から東海の蝦夷で、昔ながらの狩猟だけの東国人、即ち蝦夷とは西日本の農耕民の侵入を関が原で防いで来た岐阜の蝦夷と東関東、北陸、東北の蝦夷であつた。



この農耕の民と狩猟の民との全く相容れぬ激しく相争つて来た緩衝地帯の中に入つて狩猟民から農耕民を守る為に人身御供となつて派遣されたのが、卑化されていたヤマト・西日本人であつた。

何故に脅え死ぬほど恐れた狩猟民から東国の農耕民を守る緩衝地帯に西日本人が人身御供に派遣される様になつたか。それこそが天皇の礎を創つた崇神天皇の父・開花の登場であつた。

倭国の大乱を収束させて初めて西日本を治めたのは初代の天皇・崇神天皇の時と言うよりも、その父・開化であつた。